水戸黄門の城はショボかった？

studioクルワ

日本の城を楽しむ

YouTube かいのすけ歴史

# 「水戸城」 みとじょう　茨城県水戸市三の丸２丁目９

## 城跡の様子は？

茨城の中心水戸の街中に位置する城跡。それだけに周囲はビルが立ち並び眺望は良くありません。再建された二ノ丸隅櫓の撮影は遠くからの望遠か下からになりそう。大手門も美しいので、近寄ってその造りを楽しみましょう。城内は学校が多くありますが、見学者もちらほらいるので気にしなくて良いと思います。時間帯によっては人が増えることがありますので、撮影には注意しましょう。二ノ丸櫓見学には学校の間の狭い通路を利用することになります。また薬医門見学は学校敷地に入って行います。

駐車場は弘道館、大手門付近にあります。水戸駅の駐車場は有料ですが、城跡までの高低差を楽しむことができます。駅から大手門まで徒歩約10分。大手門から薬医門が残る水戸第一高校まで徒歩約10分。すべて見学しても1時間ほどで回れると思います。現在の街中に残る、堀切の跡を探すのが楽しい城です。

**見学のポイント**

**1 再建された大手門の巨大さを確認する**

**2 二ノ丸櫓を愛でる！**

**3 台地を断ち切る堀切に注目**

## 「ショボい」と言われる城

お城の魅力と言えば高い石垣、上にそびえるたくましい天守。カッコいいですね。そんななか、結構な都会にあるにもかかわらず「ショボい」なんて言われている城があります。それは茨城県にある水戸城。ショボいと言われる理由として「天守がない」「石垣もない」「存在感がない」などが挙げられているようですが、城好きとしてはいやいやそんなことはないでしょうという悔しい気持ちで見学をしてきました。皆さんも現地に行ってもらえば「水戸城は全然ショボくない」ことがわかっていただけると思います。

## 徳川御三家の城を比較

水戸城は徳川御三家の一つ水戸徳川家の城。有名な水戸黄門様は二代藩主光圀公であります。また幕末に活躍した斉昭公は九代藩主。十五代将軍慶喜公のお父様になります。

徳川御三家とは江戸時代のスーパーエリート大名家。尾張・紀州・水戸の三家です。江戸の将軍と同じ徳川の姓を名乗り、三つ葉葵の家紋を使うことができるという一門の中でも最高位の家柄。そしてその居城も立派。

左　水戸駅にある黄門様の像。ビルの間に再建櫓が見えるはず。
右　再建された大手門。巨大です。

尾張徳川家の居城は名古屋城。金の鯱で有名な天守は石垣を含めた高さが４８ｍもある巨大なもの。江戸時代からずっと３００年以上も大都市名古屋のシンボルとなっていました。惜しくも空襲で焼失しまったのですが再建され、美しい姿を現代に伝えています。残っている櫓も立派で、その大きさは他の小さの城の天守クラス。本丸御殿も再建され、みどころは沢山。「ショボい」要素はゼロの「しゅごい」城です。

紀州徳川家の居城は和歌山城。標高５０メートルほどの山の上に上がるのは三重の天守。櫓などを多聞櫓でつなぐ複雑な構造です。この天守も再建されたものですが、破風をたくさん用いた装飾性の高いもの。城下から見上げるとより立派に見えます。代々の城主が手を加えたことでいろいろな種類の石垣が残っているのも魅力。プラモデルにもなっていますし、こちらも間違いなく「しゅごい」城です。

## 徳川御三家の城 名古屋城と和歌山城

誰もが知る「金の鯱」があがる名古屋城（右）は、関ヶ原の合戦の後、大坂の豊臣秀頼に対抗するため徳川家によって築かれました。和歌山城（左）はもともと豊臣秀長の城だったものを徳川家が改修。徳川八代将軍吉宗公は紀州徳川家の出身です。

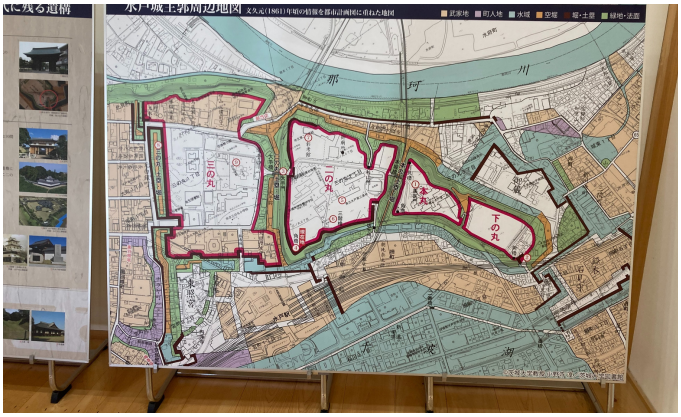
## 水戸城も負けていない

水戸城だって負けていません。実は令和になって建物が次々に再建されています。

水戸駅北口には黄門様御一行の像がありますが、そこから左に目を向けると白い櫓が。二の丸角櫓です。ビルの間に埋もれています。城に興味のない方は気付かないかもしれません。この櫓の下に近づくことはできるのですが、カメラを向けるのにためらう角度。この櫓を遠くから眺めて楽しむのはちょっと難しそうです。

水戸城にも天守がありました。いかがなものでしょうかこのデザイン。テーマパークにありそうな形をしているなと思ったのは私だけでしょうか。正確に言うと天守ではなく「三階櫓」で、この建物が水戸城のシンボルを務めました。ひょろっとした形で一重部分がやたら長い。天守台はなく、地面にそのまま建てられています。一番下は海鼠壁（なまこかべ）で『ぱっと見で石垣に見えるよう」こうなったと言われています。一重目の内部は三階建てで、上と合

左　初めて見たときとにかく衝撃を受けた水戸城天守。こんな不思議なカタチをした建物がこの世にあったとは思えません。今となってみれば金沢城御三階櫓と共通するものがあるな・・と感じています。
下　水戸城天守は二の丸に建てられました。




わせて五階建てというなかなかの大きさでした（他に例のない特殊な建物で貴重！と言われています）。惜しくも空襲で焼けてしまったのですが、いまのところ再建する計画は一切ないようです。

水戸城は、名古屋城、和歌山城と比較すると「しゅごさ」に欠けているのは事実。だからといってショボいとはいえません。

## 水戸城の構造とは？

現在の水戸城跡がどのようになっているのか確認してみます。

城跡があるのはＪＲ水戸駅の北側です。東に本丸を置きその西側に二の丸・三ノ丸が続く連郭式の縄張りです。本丸・二の丸は、学校の敷地となっています。三の丸には県庁舎や図書館があり、幕末に建てられた水戸藩の藩校「弘道館」が残っています。二の丸入口に大手門、南西に角櫓が再建されており、他に本丸には門が現存。このあたりが見学のポイントですね。

左　カッコよすぎる大手門。近づくと巨大さを実感できます。
右　大手門脇にある瓦塀。なんだか遊び心を感じます。

私は水戸駅付近の駐車場に停めたのですが（３０分１００円）、弘道館の駐車場が利用できるようです（１３台）。もしここが満車で停められないときは三の丸庁舎駐車場へ。弘道館料金所で駐車券を提示すれば３時間無料になるそうです。さらに大手門の近くにも見学のための駐車場があります。

## 必見！再建大手門

二の丸を守るのが大手門。水戸城の正門にあたり、最も格式の高い門です。明治まで残っていたのですが解体され、令和になって再建されました。これ、ずっと見たかったんです。６度に及ぶ発掘調査の結果を基に昔の姿のまま復活。高さはなんと１３ｍもあり、城門としてはかなり大きなものとのこと。実際に見るとその巨大さに驚きます。さすが御三家の城ですね。屋根瓦にはちゃんと徳川家の三つ葉葵が入っています。目を引くのは左右の塀。なんだか不思議な模様が入っています。これは瓦塀（練塀）というもので、中に瓦を入れてあるんですね。デザインがオシャレというだけでなく強度もＵＰしているそう。門の横には石垣はなく、土塁が巡っているのが水戸城の特徴？です。

二の丸の中は学校だらけ。その間の小道に入っていくと角櫓に行くことができます。入り口はとてもわかりにくいので、間違って学校に入らないように気を付けてください。

塀の間をずっと歩いていくと櫓が見えてきます。二階建ての櫓を同じ大きさの多門櫓が北と東から挟んでいます。この屋根にもオシャレな模様があります。城内側から見ると窓がまったくないのですが、外側にはちゃんとついています。中は自由に見学できるようになっていますが、二階に上ることはできません。一階の窓から外を覗いてみると草が生い茂っており、景色を楽しむことはできません。タイミングがよければ水戸の街を眺めることができるかもしれませんね。

左　再建された二ノ丸櫓。注意深く観察すると、屋根の部分にカッコイイ模様が入っています。内部には資料が展示されています。
右　水戸第一高校の入口に残る薬医門。どうしても暗くなってしまう「撮影しにくい門」として有名です。

水戸第一高校に入ってすぐのところに佐竹氏時代から使われていたと言われる薬医門が残っています。私が行った日はなにか行事があったようで、生徒さんたちがウロウロ。なので、写真だけの撮影です。形式や規模から見て水戸城本丸で使われていた門のよう。木材は古く見え、本当に昔から残るものなのだということがよくわかります。水戸城の貴重な遺構です。

ここまで現在の水戸城をみてきましたが、いかがでしょうか。「ショボい」とは言わせませんが、なんというかちょっと平和的。城にありがちな「何万の兵が来てもここで守り切って見せる！」みたいな「強さ」をグイグイ感じさせるものはありません。そのあたりが「ちょっとね・・。」と思わせるのかもしれません。

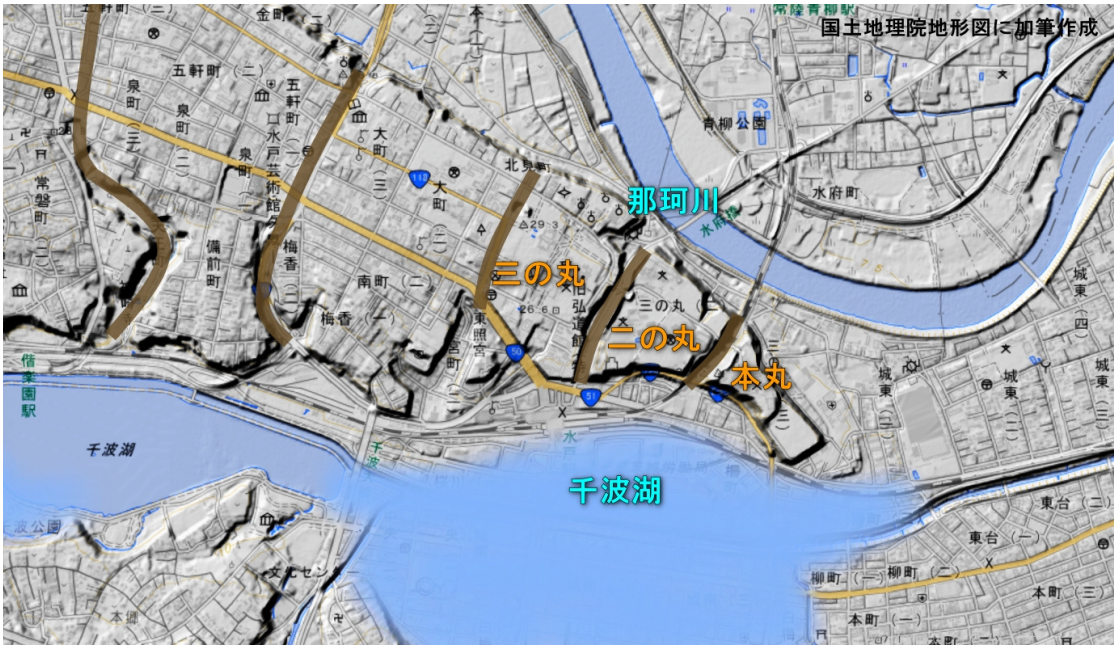
ですが、水戸城はとんでもない強さを持った城。この地は戦国時代から城が築かれ、その後もずっと使われ続けてきました。その水戸城の様子がわかる場所があるので行ってみましょう。

## 水戸城の凄さを知る

二の丸の北側。杉山門の近くに見晴台という場所があります。細い道を進んでいくと城の北側に出ます。

下を流れるのが那珂川。水戸城とかなりの高低差があるのがわかります。地形図によると水戸城がある台地の高さは約２７ｍ。那珂川付近からは２０ｍも高い場所にあります。これだけの高低差があれば敵はなかなか攻め入ってくることができません。水戸城の北側は那珂川とこの高さによってしっかり守られていたのです。

では南側はどうなっていたのでしょうか。実は水戸城は南側も水によって守られていました。現在偕楽園の付近にある千波湖ですが昔はもっと広く、水戸城のすぐ近くまでせまっていたのです。水戸駅に向かう道路は長い下り坂が続きます。現在の水戸駅の南あたりは湖だったのです。




水戸城跡の地形を調べてみると、那珂川と千波湖の間に細長く伸びる台地が出現！見事に掘の跡も残っています。現在の水戸駅付近はもともと湖の中だったのですね。

南北を川と湖によって守られた細長い台地。こんな素晴らしい場所を当時の武将たちが見逃すはずはありません。そしてこのような台地の城に用いられるのが「堀切」。曲輪を守る、人工の谷です。

まずは弘道館と大手門をつなぐ橋の下。この道路は二の丸と三の丸を隔てる堀の跡を走っています。さらに水戸第一高校の入口。はるか下を走るのは水郡線の線路。ここも水戸城本丸と二の丸を区切る堀の跡です。もしかすると線路を通すために掘り下げられているかもしれませんが、勾配に弱い鉄道を「通そう」と思うくらいなので、当時からかなりの深さがあったのでしょう。ちなみに現在の深さは２２ｍもあるということです。　そのほか県庁舎の外側にも堀の痕跡があります。ここは三の丸と外側を区切る部分だったのです。

水戸城には石垣が使われず本格的な天守もありませんでした。強固な防御施設がなかったのはどうしてなのでしょうか。

左　茨城県庁前に残る水戸城堀跡。
右　水戸城本丸と二ノ丸の間の空堀。現在は下を水郡線が通過する。

その理由となるかもしれない二つの話を紹介します。

## 水戸城に石垣がない理由

一つ目はもともと関東の城には石垣は使われていなかったというもの。関東には城を守るのに適した土があり、それを掘って土塁を築けば十分戦えたということです。小田原城を本拠とした北条氏は石垣の無い土塁だけの城に籠り、豊臣秀吉率いる２０万の大軍を一切寄せ付けませんでした。水戸城を常陸一国の本拠とした佐竹氏も、同じような考えから石垣を用いなかったのかもしれません（朝鮮出兵などで費用も時間もなかったことも考えられます。）。

二つ目は佐竹氏の後に入った水戸徳川家は、時代に合わせて城の改修を重視しなかったというもの。御三家の中で江戸に近い水戸の殿様は、「定府」（じょうふ）というかたちで将軍を直接補佐していました。「天下の副将軍」と呼ばれるのはそのためです。莫大なお金がかかる参勤交代が免除され、ずっと江戸の屋敷にいればよかったのですが、物価も高い江戸での生活は付き合いもあって楽ではなかったようです。そんなわけで実際に水戸城にいるのは家臣ばかり。だから石垣や天守などどうでもよかったのかもしれません。江戸時代を通じて将軍のおひざ元である関東では、立派な城を築くことが憚られていました。水戸城はその手本となっていたとも言われます。

水戸徳川家にとって大事なのは、徳川の世がずっと続くこと。そのために自分の城の整備より、しっかりと政治が行われることに力を注ぎたかったのかもしれません。だから水戸城には天守も石垣もなくても大丈夫。一見ショボく見えますが、「天下の副将軍」の考えはもっと先を行っていたのかも。なので水戸城も「しゅごい」城なのです。そして大した防御施設がなくても大丈夫だったのは、恵まれた地形があったからなのかもしれません。

## おすすめルート

水戸駅付近から弘道館を目指して坂を登る。下から二の丸櫓をチェック。大手門を見学した後は水戸第一高校内の薬医門へ。橋の下の空堀は国道51号付近から見上げることができます。二ノ丸に戻って見晴台から那珂川との高低差を確認。途中二ノ丸展示館で水戸城の模型を見ることができます。大手門から三ノ丸に出て茨城県庁方面へ。空堀の跡を見学。水戸駅まではずっと下り坂が続きます。付近には千波湖と偕楽園もありますので是非足を運んでみてください。